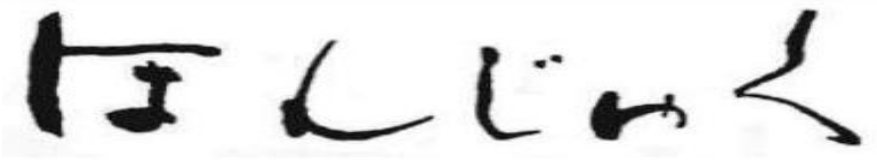
令和８年度　武蔵野市立本宿小学校　学校だより　１１月号



これからの時代を主体的に生きる「元気な子」の育成
～主体的・対話的で深い学びを実装した授業づくりを通して～

研究推進主任

本校では、昨年度から校内研究の主題を「これからの時代を主体的に生きる『元気な子』の育成」と定め、心身共に健康で、前向きに生活する子どもの育成に取り組んできました。昨年度の取り組みを通して、「元気な子」の育成には、学習における「対話」を充実させることが重要であることを再確認しました。

授業の中で、子どもが自分の考えを言葉にして友達に伝える。友達の意見を聞いて、「なるほど」や「それはちょっと違うんじゃないかな」と思う。互いの考えを重ね合わせて、一人では思いつかなかった答えにたどり着く。こうした対話の場面で、子どもたちの表情が生き生きと輝く様子を、私たちは何度も目にしてきました。対話には、考えを深めるだけでなく、子どもたちの心を育てる働きがあります。自分の意見を受け止めてもらえた経験は、「自分は大切にされている」「自分の考えには価値がある」という実感につながります。また、友達の考えに触れることで、自分とは違う見方や感じ方があることを知り、他者を尊重する気持ちが育まれます。そして、仲間と協力して課題を解決できたという経験は、「自分にもできる」「自分は役に立てる」という自信を子どもたちに与えてくれます。このように、学習における対話の充実は、学力の向上に資するだけでなく、「元気な子」の土台を築くことができます。

ところで、国においては、現在、中央教育審議会で次期学習指導要領に向けた検討が進められています。その中で、第一の方向性として掲げられているのが「主体的・対話的で深い学びの実装」です。「主体的・対話的で深い学び」は、現行の学習指導要領が目指してきた授業改善の視点です。子どもたちが自ら課題意識を持って学びに向かい（主体的な学び）、他者との対話や協働を通して考えを広げ深め（対話的な学び）、身につけた知識や技能を働かせながら物事を捉え直し、新たな考えを創り出していく（深い学び）。このような学びを通して、これからの時代に求められる資質・能力を育成しようというものです。次期学習指導要領では、この授業改善を通じた資質・能力の育成を、これまで以上に具現化し、深化させていくことが目指されています。

私たちは、この方向性を知ったとき、本校の研究と深く通じ合うものがあると感じました。対話の充実を通して「元気な子」を育てたいという本校の願いは、まさに「主体的・対話的で深い学びの実装」が目指すところと重なっていたのです。こうした経緯から、本校は、令和８・９年度の２年間、武蔵野市教育課題研究開発校として、教育課題「主体的・対話的で深い学びを実装した授業づくり」に取り組むことになりました。これに合わせて、研究主題も「これからの時代を主体的に生きる『元気な子』の育成　～主体的・対話的で深い学びを実装した授業づくりを通して～」と設定しました。これまでの「元気な子」の育成という主題を引き継ぎながら、その実現に向けた具体的な道筋として、授業づくりを明確に位置づけた形です。研究開発校という大きな役割をいただいたことに、身の引き締まる思いがしています。全職員が力を合わせ、研究の成果を本校の子どもたちのために生かすとともに、市内の学校にも広く発信していけるよう努めてまいります。

「元気な子」の育成は、学校だけで成し遂げられるものではありません。ご家庭での温かな会話や、地域の皆様とのふれあいの中でも、子どもたちは「自分は大切にされている」「自分も役に立てる」という実感を育んでいきます。ご家庭でも、お子さんの話にじっくりと耳を傾け、考えを受け止めていただければ、子どもたちの対話する力と心の元気は、さらに大きく育っていくことでしょう。保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き本校の教育活動へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。